



SDDCのビジョンが静岡銀行のIT戦略を促進 金融ビジネスの変化を見据えた 柔軟で可用性の高いグループクラウド基盤を構築



業界

FINANCIAL

課題

- グループ各社ごとのシステム構築・運用による業務負荷増大
- グループ各社で業務アプリが異なり運用や連携が非効率
- 最新の仮想化技術/クラウド技術を活用したグループ基盤の刷新
- ハイブリッドクラウドを見据えたグループ基盤の構築

ソリューション

グループ各社で構築・運用していたため、業務負荷が大きくなっていったシステム基盤を刷新するため、vCloud Suite、NSXなどのVMwareソリューションを採用し、グループ共通のプライベートクラウド基盤を構築して生産性を向上。将来的なハイブリッドクラウド構想の実現に向けて、計画当初からVMwareのプロフェッショナルサービス(PSO)による支援を受けながらスムーズに計画を進めている。

導入効果

- 初期投資やランニングコストを大幅に削減
- 基盤開発の定型化でシステム構築期間を短縮
- 基盤運用の一元化でグループ各社の業務負荷を軽減
- 基盤の共通化でITガバナンスとセキュリティを強化
- 業務アプリをグループで共有して生産性を向上

導入環境

- vCloud Suite
- NSX for vSphere

プロフェッショナルサービス

- NSX設計支援
- 仮想基盤設計レビュー/ヘルスチェック
- vRealize Operations/vRealize Log Insight活用支援
- 運用教育支援
- テクニカルサポートサービス(TSS)



静岡銀行では、中期的な経営計画において、クラウド技術を活用した構造改革を計画しています。パブリック・コミュニティ・プライベートの各種クラウドを活用しつつ、将来的にはシームレスに連携するハイブリッドクラウドの完成を目指しています。同行では、この計画とVMwareが提唱するSDDCのビジョンとの親和性の高さに注目し、中核技術としてVMwareソリューションを採用しました。すでにプライベートクラウド基盤フェーズ1が完成し、グループ各社ごとに構築・運用していたため業務負荷が大きくなっていったシステム基盤の統合が進められており、ランニングコストやハードウェアコストの削減、システム開発期間の短縮などに寄与しています。

クラウド技術を活用して 構造改革を図る

静岡市に本店を置く静岡銀行は、地域の経済を支える総合金融グループとして、地域密着型の金融サービスや関連サービスを積極的に展開し、その「地方創生」の取り組みは、他の地域の参考になるとして地方創生担当大臣からも表彰されるほどです。

静岡銀行では、2017年に3か年の中期経営計画「TSUNAGU ～つなぐ～」をスタートしました。4つの基本戦略「地域経済の成長にフォーカスしたコアビジネスの強化」「事業領域の開拓・収益化による地方銀行の新たなビジネスモデルの構築」「チャンネル・IT基盤を活用したセールス業務の変革」「地域、お客さま、従業員、株主の夢と豊かさの実現を応援する」を達成するために、ICTをこれまで以上に活用しながら「収益」「人」「チャンネル」の構造改革に取り組んでいます。

「私たちは、構造改革の中核を担うICTとして、パブリッククラウド、コミュニティクラウド、グループクラウドの3つを柱にしたハイブリッドクラウド基盤を構築し、シームレスに連携することを計画しています。中でも、静岡銀行グループのシステム基盤となるグループクラウドは、IT統制や安全性の強化、開発・運用コストの削減を目標とした重要度の高いシステムとして、優先的に構築を進めています」と経営企画部IT企画グループ調査役の大内田敦郎氏は述べています。

システム開発・運用の課題を プライベートクラウドで解決

もともと静岡銀行グループでは、各グループ企業が個別にシステムの構築・運用を行い、高い運用負荷に悩まされてきたことから、仮想化技術を活用した統合基盤を検討していました。

新たに構築されたグループクラウド(プライベートクラウド)は、設計や手順を標準化・パターン化することでグループ各社の負荷を大幅に軽減し、ITガバナンスとセキュリティの強化を図るものです。ソフトウェアで構築・運用することにより、将来的なハイブリッドクラウド構想へ柔軟に対応できるようになっています。

静岡銀行グループのICTを担う静岡銀コンピュータサービスでソリューション開発部部長を務める大村智之氏は、「当初はオープンソースソフトウェアのクラウドオーケストレーターなども検討しましたが、安定した運用には高いノウハウとスキルが必要なことがわかりました。パッケージを提供するベンダーもありましたが、将来的なアップデートや拡張性に不安があります。プライベートクラウドの構築・運用が初めてということもあり、安心して導入できるソリューションが必要でした」と述べています。

静岡銀行グループが理想とするクラウド基盤が、VMwareの提唱するSDDCのビジョンとマッチしていたことが、VMwareソリューションを選択した大きな理由だと、大村氏は述べます。グループ基盤としての信頼性を確保し、将来的なハイブリッドクラウド環境への拡張性を考慮したとき、VMware以外の選択肢はなかったのです。



静岡銀行
経営企画部 IT企画グループ
調査役
大内田 敦郎 氏

「VMwareが提唱するSDDCのビジョンは、静岡銀行グループがめざすハイブリッドクラウドの中核技術です。VMwareの支援とともに計画は順調に進められており、プライベートクラウドの構築によって大きな効果が期待できます」

静岡銀行
大内田 敦郎 氏



静岡コンピュータサービス株式会社
ソリューション開発部 部長
大内田 智之 氏

カスタマープロフィール

地域の未来を切り拓く総合金融グループとして「静岡」の愛称で知られる地方銀行。1877年に前身である静岡第三十五国立銀行が創設されたのち、1943年に遠州銀行と合併して設立。近年は異業種との連携にも積極的で、保険相談窓口の開設や家計簿アプリの提供など、さまざまな事業を共同展開している。ブロックチェーン技術を応用した電子クーポンの実証実験でも話題に。

システム構築期間は 3分の1に短縮

プライベートクラウドの構築によって、運用効率化とともに生産性向上も期待されています。既存システムの統合が完了すれば、一時払い費用は42%、年間ランニングコストは23%の削減が見込まれています。また、システムの構築期間は1/3に短縮され、電力コストも40%は減少すると試算されています。

「従来のシステムは、構築も運用も手厚いシステムエンジニアリングが必要でした。新しいプライベートクラウドの構築によって、運用負荷は大幅に軽減されるでしょう。私たちにとっては、ムダの大きかった開発プロセスを改革できる基盤ができあがったことが、大きな効果だと確信しています」(大村氏)

VEIウェアとともにめざす 理想のハイブリッドクラウド

シームレスに連携するハイブリッドクラウドの構築に向けて、静岡銀行はすでにVMware NSXを

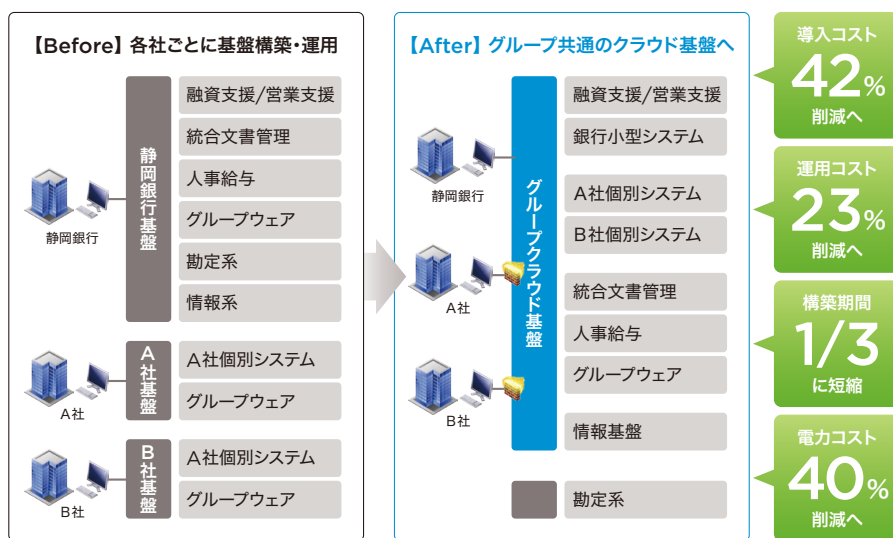
導入しており、ネットワーク仮想化も計画しています。また、渉外活動などでタブレット端末を活用するため、VMware Horizonをはじめとするエンドユーザコンピューティング技術の導入も検討しています。

大村氏は、「私たちが理想としてきた共通基盤が、VMwareソリューションによって構築できるのではないかと期待しています」と語ります。

「VMwareは、グループクラウド基盤の計画当初からコンサルティングで参画し、設計や構築の段階ではベンダー各社の調整役としても活躍してくれました。私たちの計画は、VMwareの高品質なサービスに支えられているといっても過言ではありません」(大内田氏)

静岡銀行と静岡コンピュータサービスは、理想のハイブリッドクラウド構築に向けて、着実に歩を進めています。

VMwareのサービスとソリューションは、地域経済を支える静岡銀行および静岡銀行グループの革新的なビジネスをこれからもサポートしていきます。



図：最新仮想化技術を活用したグループクラウドの構築と効果